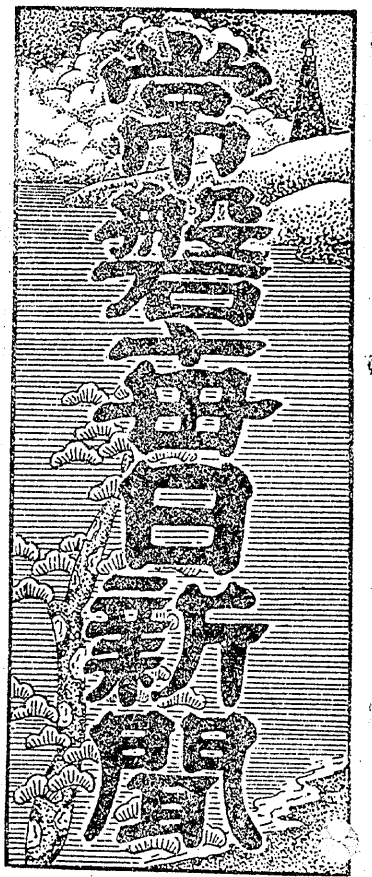


【刊夕】日六十月二十



定部金一錢 一月十五錢 郵税五錢 廣告料五錢 發行部 福島縣石城町平野五三 電話三〇三六 常磐新報社 印刷部 福島縣石城町平野五三 電話三〇三六 常磐新報社

出た話

何鳴・歌二
小鳥・英尾

ある席上で

「二三年前に較べると平には歌を作る人が随分多くなりましたね」

「實際多くなりました」

「でも、系統立つた研究のもとで作つてゐる人はやつぱり少ないでせう」

「すると隠れて自慰的にやつてるといふわけですね」

「先達つて短歌會で新妻先生が口語歌にはその傾向がある」と云つてました

「そうですね、慰み半分でやつてゐるテいふんですか、然しそりや違ひます、反つて口語をする人に眞剣なのが多いんぢやないですか」

「そうですね」

「俳句にも新しいのが随分出てゐます」

「然し、あれはどういふもんですか、私もから見れば俳句は俳句で十七字の中に感興を盛り込んでこそ俳句としての存在價值があるんぢやないでせうか」

「そうですね、……」

「然し口語歌といふのは將

來がある様でせう、これからはあゝいふ風なのが盛になるんぢやないでせうか」

「それに又口語歌で詠んだ方がびつたりと胸に響いてくるのです」

「新年文藝募集の和歌と短歌で問題があるやうです、短歌會でも高久さんなんか明答を避けておられるやうでした」

「いつそ之を口語歌としてしまひばよかつたのに」

「でも御歌所風やけるかも知れない多分の口語を含んだものは短歌として取りません」

「然し一般に今は和歌と呼ぶべきは、そしたら益々行詰るんぢやなからうか」

「あの人はこゝろで轉換した方がいゝでせう」

「これで、どうもありがとうございました」

「近くお嫁さんを貰ふさうです」

「ホー、そしたら益々行詰るんぢやなからうか」

「あの人はこゝろで轉換した方がいゝでせう」

「これで、どうもありがとうございました」

「近くお嫁さんを貰ふさうです」

火耀短歌

官製はかき一葉三首
あて名は本社文藝部
締切は毎週土曜日

朝寒き汽船の中にひとりゐて川の夜明けを寂しがつてる
水野良一

人間の凡てが悲しい喜劇役者に思はれてならぬ日だ
吉田弘子

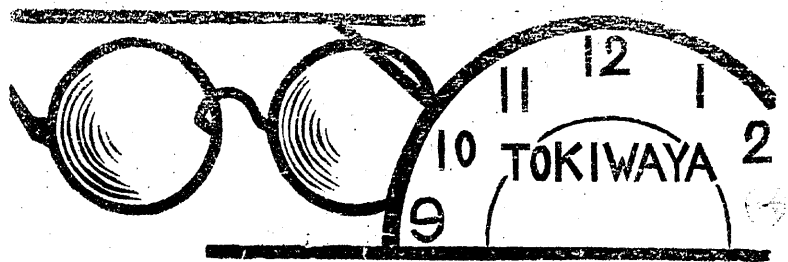
すたすたに傷いた心で雪を解かしに行くニヒリ
ストの俺だ！(北海道行)
堤周二

どこまで行つても月の光り、鐵橋の上を私が渡つてる
白木英尾

専門眼科醫師擔任

無料検眼

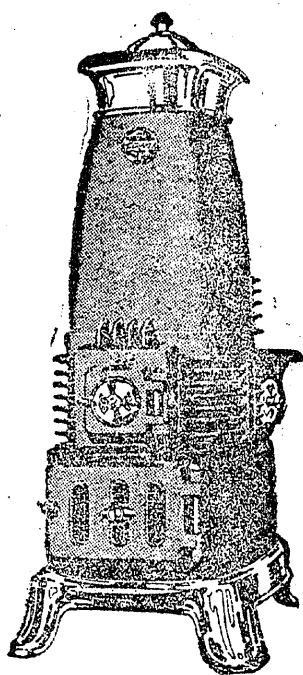
無料検眼券
御利用下サイ



信用アリ正確味萬點ノ時計
御客様本位ノ……眼鏡部

平一 常盤屋時計店 電三三九

嚴冬——征伏の王者



▼ストローブは……
フクロクストローブを御選定下さい

一、最も安い石炭で最も良く燃えるストローブは

フクロクストローブの右に出づるものはありません

二、石炭商の立場より各種のストローブを厳密試験の結果

始めて理想的フクロクストローブを見え出しました

●御希望の方へカタログを持参して御説明申上ます何卒御下命を……

福島縣總代理店



阿部石炭商店

平停車場前

磐城土産
鯉節と
鹽から
配達敏速



最優最
平代理
大日
本店
命生
榮盛
番三一電
目丁四平

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
平町田町 電話五二三番

内科小兒科
耳鼻咽喉科
外科花柳病科
レントゲン科

看護婦急派
の求めに應
じます

平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

線路を太くして

超特急運轉

愈々仙台平間に

來年夏から實施

過般實施した上野、青森間(常磐線廻り)の超特急試運轉は好成绩を収めたので鐵道省では明年度夏實施する全國列車時刻大

改正を

機として超特急を運轉することになり仙臺鐵道局でもこの保線調査を進めてゐたが今回線路の安全率と列車動搖を減殺するため特に受持區間である仙

歳末發着荷物を

平驛が特に速達

荷受人と住所を正確に

取扱上の注意

平驛では例年の事ながら特に財がい不況の折柄金融上極めて急送を必要とする年末發着荷物の取扱以上の圓滑を期するためその受託には荷札の強執住所氏名の明記、着驛選定のあやまりを避くるため荷受人と住所と荷物集配區域表の對照を正確にし配達には配達人の作業監督所要人夫の増員運搬車の増備午後利着の荷物でも日没前に到着したものはなるべく當日中に配達を終るやうといふやうな注意を促してゐる

四倉の暮市

石城郡四倉町仲町主催の第一回暮

【一】第一回支拂の日より滿一ヶ年経過したる日に百分の三

【二】第二回支拂の日より滿一ヶ年経過したる日の百分の五

【三】第四回支拂の日より滿一ヶ年経過したる日に百分の六

【四】前項以外の和議債権は其免除を受くる事

平町では十一月末現在で收支差引現金三萬七千九百餘圓あるが右は三分の二以上が國縣稅並に町外收入であつて實際町

歳入金として七八千圓に過ぎず是に對して來る二十一日支拂ふべき歳出高は

役場費一、四八六圓、臨時雇員費一〇五圓、小學校教員費三、三九四圓、商業學校費一、二一六圓、水道部員費七九一圓、同擴張部費五七五圓、職業紹介費一〇五圓、本年下半期賞與九四三圓、合計九千五百二十九圓

丸トモビル

竣工式舉行

平町四丁目柴田書店丸トモビルは過般竣工を告げたが來る十七、八の兩日午後三時より同店樓上に於いて盛大なる竣工式を擧げることとなつた

借金の難問題を

警察署に持ち込む

平署人事相談所に現れた

借金の難問題を

警察署に持ち込む

平署人事相談所に現れた

借金の難問題を

警察署に持ち込む

平署人事相談所に現れた

借金の難問題を

警察署に持ち込む

平署人事相談所に現れた

借金の難問題を

警察署に持ち込む

平署人事相談所に現れた

磐城太ネギ

北海道へ移出

石城郡内より産出される磐城太葱の出廻りは目下最盛期で一貫目十五錢十七錢位を往復してゐるが大量生産者は多く北海道方面に賣捌き殊に本年は田町に太葱組合を組織し組合で全部まとめて二車位づつ毎日積出しつゝの向北海道行は一貫目十五錢づつで全部で二十萬貫位の見込だが一月から二月にかけて注文が増加すれば三十萬を突破する豫想で目下のところ好況を呈してゐる

借金の難問題を

警察署に持ち込む

平署人事相談所に現れた

借金の難問題を

警察署に持ち込む

平署人事相談所に現れた

借金の難問題を

警察署に持ち込む

平署人事相談所に現れた

借金の難問題を

警察署に持ち込む

平署人事相談所に現れた

借金の難問題を

警察署に持ち込む

平署人事相談所に現れた

借金の難問題を

警察署に持ち込む

平署人事相談所に現れた

借金の難問題を

警察署に持ち込む

平署人事相談所に現れた

修築起債

小名濱港の

内務省では十五日福島縣小名濱港修築工事費(國庫納附金)に充當のため申請中

修築起債

小名濱港の

△材木町六 瓜田藤氏長男健
△一丁目一〇 水野清一氏四登男
△材木町二 池田貞貞氏長女文子
△鎌田町三二 荒木勝彦氏二女光子
△六間門二 淺野慶太郎氏四男智

修築起債

小名濱港の

の起債額四萬九千七百圓を許可する旨指令を發した

修築起債

小名濱港の

平町人事

修築起債

小名濱港の

平町人事

修築起債

小名濱港の

平町人事

丹野齒科醫院

夜間も診療致します
御待ち兼ねの別府淋藥が着荷致しました、リン病やコシケに苦まる方は一日も早く試して全快のよるこび見て下さい
無効返金(二日のんでキ、メなき時)無効返金證は殘藥引替に全部返金す添付せり
岩里リン病別府淋藥 服用者大好評
別府温泉で名高い岩里家の家傳秘藥
人迷はせの賣藥の如き中に別府市中濱(岩里天然堂大藥房發賣)のリン藥は古來家傳秘藥にして男女血ウミ痛、コシケ、消渴、二日で止り速服するも絶對胃腸障害なき名藥である、尙同藥は責任ある速効藥にして二日以内服効なき時は殘藥引替に全部異議なく返金す急性慢性悪性治らぬ人は七日のまれよ申込次第新品送薬す
淋病治療書數十頁の美本無代進呈
藥價(急性)慢性頑固悪性用(赤箱)一週分五圓
一手特約店 阿康藥舖
平古鍛冶町(電話四四番)

外科

専門線光X

上田外科醫院

平町南町
電話一二九番

去る人と来る人

新舊平警察署長

(既報) 荒井署長は一昨年八月平署に就任以來多年警察界に在つてミガキのかかつた腕を縦横に揮つて

署内の刷新を圖り極めて公平な立場から警察行政の任に當つた爲め近來稀れな名署長として評判が頗る高かつた丈に周囲から今回の退職を非常に惜まれてゐる、廿五、六日頃一ト先づ在京中の令息の許に身を寄せる豫定であるらしい、尙ほ

後任の 前原町署長

村慶氏は以前平署長の職に在り當地方の事情を知悉してゐる人であり且つ郷里が茨城縣だけに今回の榮轉を頗る喜んで居ると

鯨岡氏赴任

卅日平郡線

今回の縣下警察署長の異動の餘波を受けて喜多方署詰となつた平署次席鯨岡恒氏は卅日午前八時五十五分平驛發平郡線にて赴任する

先づ警察官として

位人臣を極めた

荒井退職署長が

けふ署長室で元氣好く

「依願免本官」の辭令と共に星霜卅六年間の長日月に亘る官界から奇麗サツパリと足を洗つた平警察署長荒井市太郎氏は

和服姿で 署長室に決判を押しながら記者を引見して元氣好く語る「イヤー永々厄介になつた、やめる事になつても別段思ひ残す處はないよ、二男三男は無事に帝大を卒業させ暫く小學校教員をやつて居た爲めに修業の遅れた長男が、今

東洋大學 に在學中で明後年の三月卒業するのでそれ迄は僕も此職について居たかつたんだが、夫れでは餘んまり慾が深過ぎる

から夫れに世の中は自分の思ふやうにはかりならぬのが常で、僕なんか寧ろ運よく恵まれて来た方なんだよ何しろ二級俸にして貰へたんだからナ、判任官一等の譯で、先づ

警察官として位人臣を極めたと云ふものサ、此の邊で身を退かなくてはムツ／＼してゐる後進の者が可哀想だ、官界卅五年間と云ひば永いやうだが過ぎ去つた今日になつて見れば夢の如しサ、やめるにしても願ひて

一點汚辱を殘さぬから氣がせい／＼してゐるヨ最初僕が平署長に就任して

来た時には民政派の札付きでもあるかの如く思つた人もあるやうだが、決してそんな簡単なものぢやないヨ、今になつて見ればよく解つたらうと思ふ、これからの方針も

別に極つてはゐない結局田圃に親しんで老後多に閑日月を樂しむ積りだ

漁船暗礁に

乗組員は無事

石城郡小名濱町上村寅次郎所有の漁船大榮丸(三十三馬力)が十四日午後五時頃雙葉郡久の濱町江の網灣に入港の際港口が狭いので操縦を誤り暗礁に乗りあげたので四倉水難救濟會員出動し救助したが船が破損しただけ乗等員十一名は無事

都會に流れ込む

漁村の兒童等

豐間小學校の如きは

中途退學者が續出

農村の深刻なる不況は兒童にも及んでゐるが特に目立つて酷いのは漁村であり義務教育すら満足に修められず都會へとドシ／＼子守にやとはれて行き學校當局としてもこれが施す術なく憂慮して居る、豐間小學校の如きも惨めなものがある、作山校長も「漁村は中途退學者は何時ものことではあるが今年などは不けい氣が深刻だから止むなく奉公に出て行くのがある」と同情

七十七撞球會

七銀行平支店にては十三日玉突會を催し大谷、小林、山田の諸氏優勝した

警中の

窃盜生徒を

諭旨退學に

昨報平町警城中學四年生渡邊武(七)假名にかゝる窃盜事件に關し同校では教職員會議を開き善後策を講じた結果取敢へず十四日同人に對し諭旨退學を命じた

貨車の火事

汽關車から飛火

十四日正午頃平驛構内に停車中の木炭を積んだ貨車が俄に火を發したので大騒ぎとなり早速驛員が駆けつけ消止めた原因は汽關車の飛火

明日の天気

北西の風天氣よし時々小雪がある

- 前七、〇〇 ラヂオ体操
- 前九、〇〇 氣象通報
- 前九、一〇 料理献立「クリスマス料理 牛肉野菜 黄味ソース」鈴木貞子發
- 表
- 前一〇、三〇 講演「南米北部建國者シモ、ボリゲアルの百年祭に當りて」小林武藏
- 正午 時報
- 後〇、〇五 掛合噺「三人爺」大丸民之助、柳家とし松、パンカラ兵三郎

相馬たより

相馬郡鹿島町大火十月十四日夜十二時發火折からの烈風に類焼者は菅野仲治若松亦治、幾世橋忠之助、添田金吾、引地善治郎、泉川龜四郎、石川廣衛、鈴木龜次郎、齋藤伊助、星トミエ、酒井兵助、清信七郎、佐藤彌助、齋藤專治、青葉勘治、上田義三、佐藤傳、高橋伊助、東條吉太郎、相良忠、柴田市太郎、太田要松、泉田益三、川原房治郎、四籠クマ、坂入千太郎、水谷久次郎、井上龜之助、大寺正己、阿會兼代等にして棟數六十一罹災人員一五八名に達し原因不明火元と目されるは鈴木龜次で豚二頭焼死全損害六萬圓

新年文藝懸賞募集

初春の紙飾を飾る宛名 縮切 十二月廿日 用紙 官製はがき 宛名 本社文藝部

- 和歌「羊」 一人各三首限 高久晚霞氏選
- 俳句「春着」 一人各三句限 渡邊何鳴氏選
- 童謡「正月」 一人各二篇限 川崎小鳥氏選
- 詩「隨意」 一人各二篇限 片寄歌二氏選
- 短歌「光」 一人各五首限 白木英尾氏選

投書には「新年文藝」と種目とを必ず明記すること
入賞者を一名 二等二名 三等三名に分ち各賞品を呈す

